

平成27年度 小竹小学校 学校評価まとめ

*** アンケートによる到達度**

かなりそう思う(4) そう思う(3) そう思わない(2) かなりそう思わない(1) → この平均値を掲載しています。

*** 達成度**

A → 到達度の平均が3点以上

B → 到達度の平均が2点以上

C → 到達度の平均が1点以上

	質問事項	達成度	アンケートによる到達度			地域関係者・保護者の意見	学校評議員の意見	改善策
			保護者 地域	児童	教職員			
1	学校は楽しい	A	3.3	3.4		○「小竹小学校でよかった」という子供の声をよく耳にする。こういう声を聞くと、小竹小学校に入学させてよかったと思う。	○小学校で一番大切なことは、「学校が楽しい」ことである。「今日も楽しかった」という言葉を聞くと安心する。	□「いじめは絶対許さない」を学校だけでなく保護者・地域とともに連携していく。 □積極的に学ぼうとする意欲を学習や行事で育成するとともに、自己肯定感を養う。
2	基礎学力の定着	A	3.1	3.4	3.3	○楽しく学習に取り組んでいる。 ●教員によって授業の仕方に差があり、子供の理解度にも差が生じる場合がある。	○「できない子」を「できる」ようにする姿勢は素晴らしい。 ○「小竹だより」を見て、児童の文章力の高さを感ずる。	□覚えなければいけないことは、繰り返しの指導によって身に付ける。また、算数科では、既習学習を基に自分で考え、友達の考えと比較し、自分の考えを確かにしていくような学習展開を取り入れる。
3	算数の学力の定着	A		3.3	3.5	○学校公開を通して、習熟度別少人数学習が行われているのがよく分かる。 ●教員によって、授業力に差が見られる。	○特に中高学年は習熟度別少人数学習が行われ、とても手厚い指導である。積み重ねが重要な教科なのでありがたい。 ●習熟度別によって児童のプライドへの傷が心配である。	□来年度も中高学年は習熟度別少人数学習を継続して行う。また、習熟度別のコース編成の在り方を全教員で確認する。 □「東京ベーシックドリル」を活用し学習を確実にする。
4	学習習慣の定着(家庭学習も含む)	A	2.9	3.2	3.0	△自ら宿題を家庭(または広場事業)で行えるようになると、さらにいいと思う。 ○学校では、落ち着いて授業を受けている様子が分かる。	○どの児童も自席に座って授業を受けている。 △家庭での学習の在り方を保護者も考えていくことが大切である。	□家庭学習については、児童と保護者の評価に隔たりがあった。学校では、原則毎日家庭学習を出していく。家庭で自ら学習する習慣を定着させていく。

5	生活習慣の定着	A	3.0	3.2	3.0	<p>○きちんと挨拶ができる児童が多い。 ●教員によって、生活指導力に差がある。</p>	<p>○「小竹小ミニマム10のルール」を利用して、毎月子供たちに自己評価をさせている点が良い。 △学校だけではなく、地域・保護者も子供たちの生活習慣の改善を図る必要がある。</p>	<p>□「小竹小ミニマム10のルール」のほか、「小竹小子供の約束」を策定し、全教職員が一丸となって指導にあたる。 □特に学校では、挨拶について重点化を図り、自分からすすんで挨拶ができる児童を育てていく。 □家庭では、規則正しい生活習慣・挨拶の徹底を今まで通り推進して行ってほしい。</p>
6	思いやりや優しさの育成	A	3.2	3.2	3.3	<p>○全学年同時に「いじめ防止ポスター」を掲示したのはよかった。」 ○担任・養護の先生・相談員・スクールカウンセラーの連携が図られている。 ●赤ちゃんがそばにいるのにボールを使って激しく遊ぶ子がいたのが残念だった。</p>	<p>○上学年の子供たちは、下学年の子供たちにとっても優しく接している。小竹小の伝統的な光景である。</p>	<p>□週1回の道徳の授業を大事にするとともにし、教育活動全体で思いやりや優しさを育てていく。 □来年度もたてわり班による活動を取り入れ、異学年で学べる機会を設ける。</p>
7	パソコン等の電子機器の活用	A		3.5	2.9	<p>○高学年になるとパソコンを上手に扱うことができる姿を見て感心した。</p>	<p>○本で調べ学習をする子が減るのは心配だが、パソコンの技術の習得は素晴らしい。</p>	<p>□来年度も全学年でパソコンによる学習を取り入れる。</p>
8	体育授業等の充実	A	3.4	3.4	3.2	<p>○「なわとび月間」「マラソン月間」があり、子供たちは、熱心に運動しているのが分かる。</p>	<p>○「なわとび月間」「マラソン月間」のカードが工夫されており、子供たちが意欲的になるような内容になっている。</p>	<p>□授業改善を行う。「技能」の習得はもちろん、「関心・意欲・態度」「思考・判断」も大切にし、運動好きな児童を育てる。</p>
9	外遊びへの児童の意識	A		3.5	3.3	<p>○先生も一緒に校庭で遊ぶ姿が見られ、子供たちの外遊びへの意識を高めている。</p>	<p>○寒い日でも、元気に校庭で遊ぶ子供が多い。</p>	<p>□休み時間に外遊びをする児童が多い。児童は、遊びの中で人間関係を学ぶことが多い。また、体力向上にもつながる。これからも外遊びを励行していく。</p>

10	健康に関する児童の意識	A	3. 2	3. 4	3. 4	<p>△夜、早めに就寝する習慣を家庭でも身に付けさせたい。</p>	<p>△早寝早起きを保護者に啓発する必要がある。 △自然の中での体験活動を多く取り入れることも大切である。自ら体験したことは一生身に付けやすい。</p>	<p>□来年度も手洗いやうがいマスクなど注意喚起をしていく。 □家庭でも、早寝・早起き・朝ご飯を今まで通り推進して行ってほしい。</p>
11	事故・災害への児童の危機意識	A	3. 2	3. 5	3. 3	<p>○掃除が行き届いている。 ●トイレを洋式便器に改修してほしい。 ●登下校の際、児童の様子が危険なときがある。</p>	<p>△5年生でメールに関する情報モラル教育を行っているが、SNSの使用を間違えると恐いことが起きることを子供がもっと知る必要がある。</p>	<p>□3. 11を経験し、災害に関する意識は、児童も高い。毎月の避難訓練はより現実的なものにする。 □登下校時の歩き方については、広がって歩くなど危機意識が低い引き続き指導をしていく。 □「SNS小竹ルール」を策定し、正しいSNSの利用法を児童に徹底させる。</p>
12	音楽活動の推進	A	3. 7	3. 4		<p>○音楽会が素晴らしかった。 ○学年が上がるごとに成長を感じる。日頃の音楽の授業のよさの賜物である。</p>	<p>○小規模の学校で児童数が少ない中、音楽のレベルの高さには目を見張るものがある。</p>	<p>□来年度も全学年音楽専科による授業を取り入れ、音楽の楽しさを味わわせる。</p>
13	望ましい食習慣	A		3. 7	3. 0	<p>△家庭でも好き嫌いなく（栄養に偏りなく）子供に食べさせたい。</p>	<p>△食が細くても健康であれば、まずは大丈夫と考えたい。味覚等は成長に伴い変わる。</p>	<p>□「食」の大切さを学校・家庭の場で児童に伝えていく。</p>
14	家庭・地域との連携	A	3. 5		3. 1	<p>△キャッチバレーボールの発祥の地として、部員の確保を学校でもしてほしい。 △学童クラブの機能を学校内に移せると助かる。</p>	<p>○各行事において、学校・家庭・地域が協力し合っているのはありがたいことである。 ○学校だよりやホームページなど、学校の様子をいつも何うことができる。</p>	<p>□来年度も5月に個人面談を実施し、早い段階で担任と家庭との連携関係を築く機会をつくる。 □学校も地域行事に積極的に参加し、地域でも子供の成長を見守る。</p>